



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No.3

平成26年5月15日発行 発行責任者 校長 河原 宣孝

桜とともに訪れるもの

校長 河原 宣孝

桜 満開

今年の西春地区の桜はとても美しいです。例年、桜の咲く時期は低気圧などがきて、桜の花を飛ばしてしまったり、気温が低く一気に咲かなかったりしていました。今年は、桜の木にいっぱい花を咲かせ、ボリューム感たっぷりの桜を味わっています。

桜が咲く時期のイメージは全国的には入学式、そして新年度で出会いのシーズンという雰囲気があります。さすがに別海町ではこの時期、まだ雪解けの終盤です。根室管内で桜が咲くころというと、学校では家庭訪問の時期というイメージがあります。もう一つ、「子どもの人間関係が構築され始める時期」でもあります。

桜の時期には

新学期が始まったばかりのときは、子どもたちそれぞれが緊張感を持って、下級生を気遣う上級生なりの立ち振る舞いで、下級生は上級生を慕いながら生活を始めます。ゴールデンウィークが終わりやっと桜が咲き始めた頃、子どもたちは徐々に自分を主張し始めます。西春別小学校の子どもたちも例外ではありません。自分の考えや思いを、言葉や行動にして表し始めました。4月初めは、緊張感も手伝ってある程度の距離感を持って交流していました。とても良い雰囲気です。最近、互いがわかるようになり「地」が出てきました。「地」がでてくると、だんだん揉め事へと発展してきます。私は、それは大切な「成長の証」と捉えています。相手の考えや行動を理解したり、距離感や接し方を学習する機会ととらえています。しかしこれは、きちんと子どもの心理を理解した上で手立てを講じていないと、不幸な上下関係が出来上がってしまったり、大きな問題に発展することがあります。そうならないためには教師や保護者が上手に子どもとかかわることが不可欠です。学校では、道徳や学級活動、日頃の声かけはもちろん子どもたちの様子をしっかりと捉えること。また、家庭でも子どもの様子の変化をしっかりと見取り、子どもの話をしっかりと聞きいてあげること。それが大変重要なことです。また、私の経験では新しい学級を持ったとき、いつも「4月はいい感じだったのになあ」と振り返ることが多かったものです。実は子ども同士だけではなく、先生と児童、先生と学級という関係でも似たようなことが起きます。学級でも学級経営について職員が情報交換したり、子どもをしっかりと見取りながら、担任と子どもたちが一体感のある学級が作れるよう工夫していきます。

いじめ根絶を願って

揉め事はいじめと紙一重と捉えています。学校では「いじめはいつでも起こりうる」という認識に立って「いじめのない明るい楽しい学校生活」を送ることができるよう「いじめ防止基本方針」を昨年度策定しています。以下、抜粋を紹介します。

「いじめ防止基本方針」抜粋

いじめ防止のための基本姿勢として、

- (1) いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。
- (2) 児童一人一人の自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動を推進する。
- (3) いじめの早期発見のために、様々な手段を講じる。
- (4) いじめの早期解決のために、当該児童の安全を保証するとともに、学校内だけでなく各種団体や専門家と協力をして、解決にあたる。
- (5) 学校と家庭が協力して、事後指導にあたる。

いじめの早期発見・早期解決に向けての取組

- (1) いじめの早期発見のために、様々な手段を講じる。
 - ① 「いじめはこの小さな学校でも、どの児童にも起こりうるものである。」という基本認識に立ち、全ての教員が児童の様子を見守り日常的な観察を丁寧に行うことにより、児童の小さな変化を見逃さない鋭い感覚を身に付けていく。
 - ② おかしいと感じた児童がいる場合には、すぐに関係する複数の職員に周知するなどの連絡報告などを怠らず、また、毎日行われている朝の打ち合わせや生徒指導会等の場において気付いたことを共有し、より大勢の目で当該児童を見守る。
 - ③ 様子が変化が見られる場合には、教師が積極的に働きかけを行い児童に安心感をもたせるとともに問題の有無を確かめ、解決すべき問題がある場合には、生活アンケートの実施や教育相談活動で当該児童から悩み等を聞き、問題の早期解決を図る。
 - ④ 「学校生活に関するアンケート」を年3回行い、児童の悩みや人間関係を把握しいじめゼロの学校づくりを目指す。
 - ⑤ ④と同様に年2回の「学校評価アンケート」により、別角度からも不安を察知する取り組みを行う。
- (2) いじめの早期解決のために、全職員が一致団結して問題の解決にあたる。
 - ① いじめ問題を発見したときには、学級担任だけで抱え込むことなく、学校長以下全ての教員が対応を協議し、的確な役割分担をしていじめ問題の解決にあたる。

いじめ問題に取り組むための校内組織

- (1) 学校内の組織
 - ① 「生徒指導部会」の定例開催
 - ② 「いじめ防止対策委員会」
いじめ防止に関する措置を実効的に行うため、いじめ防止対策委員会を設置。
- (2) 家庭や地域、関係機関と連携した組織
緊急を要する問題行動が発生したときに、緊急生徒指導委員会を開催する。構成は校長、教頭、生徒指導部長、(担任)、PTA会長、中標津警察署署員、別海町教育委員会とする。
などです。

また、今年度から、道徳の教材として文科省がより道徳教育の充実を図るためにと作成した「私たちの道徳」が全児童に配布されました。読み物や資料、そして子どもたち同士が話しあったり、考えを記入できるようになったりして効果的に活用できるように作成されています。本校では一部分「心のノート」と併用しながら、「いじめ」に限らず子どもたちの道徳心向上にむけ活用し、明るい楽しい学校生活を送ることができるよう道徳の充実をはかります。



桜は語る

美しく咲く桜の木の下で宴をする風情には、コミュニケーションを図ったり、意思疎通を図り、争いを上手に回避する日本人らしさがあります。グラウンドのたくさんの桜を見ながら、子どもたち同士の関わりが深まって、大きく成長してほしいと願っています。

避難訓練

5月2日（金）、今年度はじめての地震を想定した避難訓練を行いました。

「地震が発生しました。」というアナウンスなく、突然地震の効果音が校内に流れるのを合図に訓練がスタートしました。先生の指示で、一斉に机の下にもぐり身の安全を守ります。揺れが収まったことを告げる放送を受け、先生の指示に従って整然と避難場所へと移動します。避難練習後、校長先生から「おさない・かけない・しゃべらない」の話と、身の安全を守るために上ぐつをしっかりはいていること、チリカミ・ハンカチを持つこと、つめをきれいに切っておくひとなど、大切な事柄を確認しました。

備えあれば憂いなし。今年度は、このあと火災・不審者対応等の訓練を予定しています。



大きく成長する季節



連休明け間もなく、グラウンドに転圧が入りました。大雪のためフワフワだった地面が、しっかり踏み固められグラウンドが使えるようになりました。

すでにバドミントン少年団の活動が始まっていますが、野球少年団も活動開始。本格的に、西春別少年団が始動しました。

グラウンドには遊具を設置。安全点検もしっかり行えて使用開始。休み時間になると外に駆け出す子どもたち。ブランコ、シーソー、ジャングルジム・・・思い思いに好みの遊具に集まり楽しそうに遊ぶ姿が見られます。

今年の春は暖かく、日によっては初夏を感じさせる陽気。桜も開花したかと思った途端、間もなく満開という勢いです。桜だけではなく校舎のまわりには、待ってましたとばかりにツツジ、福寿草、すいせん、タンポポと、たくさんの植物がいっせいに咲き誇り、チョウチョが行き交うようになりました。もちろん子どもたちにとっても、物事をどんどん吸収して、大きく成長できる、そんな季節を迎えました。



早寝・早起き・朝ごはん テレビを止めて外遊び 学年×10分の家庭学習

歌声集会

今年初めての歌声集会があり、校歌を歌いました。はじめに、学級ごとに整列して合唱。続いて、耳に当てた手の向きを前後に変えながら、自分の声と一緒に歌うみんなの声と一緒に耳に届く、「響く」という感覚を体験したりしながら練習を進めました。

練習の中で校長先生から「校歌は世界でただ一つだけの歌です。誇りを感じて歌ってほしいと思います。」とのお話がありました。



朝の活動という短い時間ですが、集会の終わる頃には子どもたちの元気な歌声が体育館に響いていました。音楽祭や学芸会につなげていきたいです。

栽培活動準備

地域の方がご好意で貸してくださっているビニールハウス小屋横の空き地。そこに畑をつくり、栽培活動を行っています。収穫祭に向けて縦割り班で協力し、じゃがいもなどの作物を育てます。



いも植え作業に先立ち、保護者の方が堆肥や石灰、タンカルを撒いて畑おこしをしてくださいました。畑が出来上がると、5・6年生が区画を整えたり、畝づくりを行ってくれました。

栽培活動では、縦割り活動以外でも、ビニールハウスや空いている畑を使って学級ごとに、いろんな作物を育てます。

おどされた！
別海・西春別小4年

今日、お母さんにほけんだよりを見せたら、「また、おちゅうしゃがあるんだって。」と言われました。そしたら、「うそだよ。6年生だけだよ。」

交通安全教室
別海・西春別小4年

今日は、交通安全教室がありました。じてん車のきまりはもちろん、歩くきまりもさいしょからわかっていました。でもよく習しました。あぶないことや、まきこみとか、一歩さがるとか、右左をちゃんと見てという

ささっと見に行くとさらが一枚われていた。まるで UFO が落っこちたよう。妹とほくは、ほっせんと見ていた。お母さんは、「あらあ。」と言って、ほっせきを出した。

（3年時の作品）

うすることがわかったです。みんなのじてん車を見たり、ゆめこちゃんに、「しいなの自転車カッコイイね。」

（3年時の作品）

UFOみたい
別海・西春別小4年

ぼくと弟が遊んでた。妹はお母さんのお手伝い。食器洗いをしていたらパリ、カリリン。

何かのわれた音が聞こえた。

5月10日の北海道新聞（夕刊）に本校児童の作品が掲載されましたので、ご紹介します。